

太巴塋 部落

花蓮・光復



紅糯米的郷、大地の恵みをキッチンへ

花蓮県光復郷の太巴塋(タバロン)部落は、アミ族の文化を育くむ重要な土地の一つです。馬太鞍溪と光復溪が交わる所の南に広がる広大な平原で、アミ族の人々は紅糯米(赤もち米)を復活させ栽培を行っています。この光り輝く赤い宝石のような紅糯米は、アミ族の伝統的な文化を伝える重要な作物です。紅糯米のほか、稲、金針(ウコンカンゾウ)、箭竹(ヤダケ)、黄藤心(ヒメトウ)、黒糯米など、様々な作物も収穫されています。また、近くの光復市場は花東地区において、もっとも先住民の台所がうかがえる野菜が集まる市場と言われており、いろいろなお宝野菜を見つけることができます。

文化的なコンテンツが満載のタバロン部落のあちらこちらに、悠久の歴史が残したアミ族伝統の陶器、木彫、竹製の工芸品、織物、伝統工芸品などが見られます。一年に一度、盛大に行われる豊年祭は、祭りの2週間前から準備が始まり、アミ族の年齢別階級組織を動員し文化を伝えています。タバロン部落は、豊かな文化で知られていますが、栽培の復活に成功した紅糯米もまた、赤い光沢がルビーのように輝き、栄養豊かで文化的な意義をも兼ね備えた美味しい食材として、より多く人々のキッチンで活躍していくことを願っています。

